

ら振る舞われた軽食を堪能した後、カルチャー・ショーが行われた。各国5分間のミニ・ナショナル・プレゼンテーションに加え、NYSCによるスリランカの伝統舞踊や日本の歌の披露があった。PYを代表し、オーストラリアの青年がNYSCの方々の温かく寛大なもてなしに感謝するスピーチを行った。



2月16日は、ホームビジットが三地域（マダパサ、マカンダラ、ボクンダラ）に分かれて実施された。PYは二人一組で各家庭を訪問し、家族と共に時間を過ごした。それぞれ、寺院を訪れたり、地元を散策したり、民族衣装を着用する体験するなど、思い思いの時間を過ごした。

2月17日の午前中はオープningシップを実施し、スリランカ政府関係者、ex-PY、ホームビジットのホストファミリーなど、約2,000人が船を訪れた。



ホームビジットの感想：荻原沙理（日本）

「ここを自分の家だと思ってね」私たちのホームビジットはこの言葉から始まりました。近所を散歩したり、スリランカ料理を手で食べることに挑戦してみたり、ダンスを教えてもらいながら一緒に踊ったりと、観光では絶対にできない、貴重な経験ができました。

驚いたことは、家族のつながり、そしてなにより近所同士の付き合いが密接であったことです。近所をホストファミリーと一緒に散歩していた時のこと、小さな人見知りする男の子とおばあさんとすれ違いました。もじもじして、あいさつをしてくれない彼に、おばあさんだけでなく、私のホストファミリーも一緒にになって、「お名前はなんていうの?」「お姉さんに自己紹介してあげて」と話しかけていました。それはどこか私が小さい頃いろいろな

人にかわいがってもらった思い出と重なり、自然と笑顔になりました。小さな子供は地域のみんなで育てる。地域の大きな愛に囲まれ、日々の生活が営まれているのを感じました。スリランカに着く前からスリランカのデリケーションの温かさにはいつも驚かされていましたが、家族や隣近所とのつながりの深さを感じることで、その理由が少し分かったような気がします。

訪問国活動で訪れるまでは、想像したこととなかったスリランカの日常は、どこか懐かしく、ほっとするものでした。日本では無縁社会が大きな問題になっていますが、彼らの生活から学べることが多くあるのではないかと感じました。

ホームビジットの感想：レーガン・アシュレー（オーストラリア）

にっぽん丸がチェンナイを出港した際、多くのPYが、インドにおける課題別視察の学びをより大きな文脈の中で検証するために、インドの人々の日々の生活を体験してみたかったと語っていました。ありがたいことに、コロンボでの訪問国活動においてはその希望を叶えることができました。

私は自分を迎え入れてくれる家族に会うことをとても楽しみにしていた一方で、緊張していました。しかし、緊張などする必要は全くなかったことがすぐに分かりました。温かい笑顔とホスピタリティ（おもてなし）で私たちを出迎えてくれたのです。私がお世話になった家族では、ホストマザーはほとんど英語を話しませんでしたが、ジェスチャーを交えた会話で十分にコミュニケーションを取ることができました。また、私たちを迎えてくれたホストシスターは、とても聰明で英語も流暢で、通訳をしてくれました。私はチリのPYと一緒にこの家族に受け入れてもらいました。

家の中に入ると、壁に掛けられた家族の写真や、オーナメントや花が飾られ、それは私が自国のオーストラリアで目にするような、馴染みのある家でした。それと同時に、室内と外が吹き抜けになっている、気候に合わせた家の構造は、スリランカらしさを感じさせました。穏やかな家の佇まいはとても居心地の良いものでした。

家に到着すると、家族の親戚や近所の人まで集まり、温かい歓迎のあいさつをした後、私たちの日々の生活やバックグラウンドに関してたくさんの質問をしてくださいました。とてもおいしい食事でもてなしてもらいましたが、残念ながら彼らは私たちと一緒に食せず、しばし同席するのみでした。

昼食の後、家族と最初に落ち合った寺院に戻り、大仏像の建築のためにれんがを積む作業を手伝いました。詳細なスケジュールが知らされていなかったため、作業に適した服装ではありませんでした。その後、お寺で仏教の儀式に参加した際に、僧侶の方が英語で説法を説き、SWYと私たちの発展を祝福してくれたことに、私はとても感動しました。

全体を通してかけがえのない経験となりました。訪問国活動の一環として実施された課題別視察での学びを更に深めるような体験となりました。家族や地域社会の強い絆の大切さを垣間見ることができたことや、スリランカ社会に根付く仏教の影響も興味深いものでした。そして、スリランカでたくさんの新しい友ができたことは、私たちが皆同じ人間であることを改めて気付かせてくれました。スリランカのホームビジットは私にとってSWYで一番有意義な体験の一つとなりました。

参加青年の感想（アンケートより抜粋）

< 良かった点 >

このプログラム全体が私の人生を変えてくれる出来事になるだろう。

スリランカでのすばらしい経験に関わった皆さんについて考え始めなければならない。普段の生活スタイルを内側から経験することと、自身も刺激を受けたコース関連課題別視察とのバランスが抜群だった。課題別視察を通じて、多くのJPYが自信をつけ、国際的レベルのディスカッションに積極的に参加していたことに気付いた。

スリランカ人が日本人に親近感を抱いているのを感じたが、多くの日本人はこの国について知らない。だからこそ、私たちが彼らの親切とホスピタリティについて伝え、広めていく必要がある。

戦争、テロリズム、貧困等、スリランカの歴史について、今後答えを探すべき様々な課題を得た。グローバル世界の現実を感じることができた。このようなすばらしいプログラムの運営に対し感謝している。

スリランカ政府のホスピタリティとプログラムの実施に

対し、責任を持って応えなければならないと感じた。スリランカの人々の親切と好意に感動した。スリランカの文化について多くを学んだ。訪問を通じて日本とスリランカの良好な関係を知った。友人と家族にこのことを伝えたい。

主催側が一丸となって、真摯に運営に携わっていたのは明らかだった。

スリランカ人は聰明で親切な国民だ。私たちはスリランカの食べ物、文化、伝統衣装を堪能した。歓迎会も楽しんだ。全面的にすばらしい運営をしてくださった日本政府とスリランカ政府に感謝している。

訪問前はスリランカに関して十分な知識がなかった。スリランカでのプログラムを終えて、この国に対するイメージが変わり、歴史、現状、文化、国民への理解が深まった。

< コース・ディスカッション別課題別視察 >

盲ろう学校のクラスは少人数で、生徒一人一人に対して十分な学習指導が行き届いていた。子供たちは非常

に満足しているようだった。日本の盲ろう学校についてももっと知りたい。

盲ろう学校の訪問がすばらしかった。精神面でも感情面でも刺激を受けた。とても良い訪問だった。

私は今回の訪問で初めて傷痍軍人に会った。この施設はある種、持続可能だと感じた。兵士が仲間の兵士の世話をすることを含め、他人のアイディアが理解できた。

課題別視察ではスリランカの内戦と内戦後の政府の復興政策について学ぶことができ、大変有意義だった。

スリランカの訪問国活動はすばらしかった。とても温かく、愛情深く受入れをしていただいた。課題別視察で宝石ビジネスの全てと取引について学んだのは、他に例を見ないものだった。最も印象的だったのが、運営のすばらしさだった。全てがスムーズだった。

コロンボでは全てが本当に楽しかった。コース関連課題別視察ではテレビ局を訪問した。本事業に関するニュース番組を視聴し、ドラマの制作スタジオを見学した。非常に興味深い訪問だった。ホームビジットではホストファミリー宅で食事をしたり、様々な文化を体験したり、貴重な経験をした。良い思い出になった。スリランカでの温かいおもてなしに感謝している。

コース・ディスカッションの課題別視察は良かった。スリランカ人がどのように病を治しているかを学んだ。植物から薬を作っていた。施設を見学し、自然に触れる機会を得た。コース・ディスカッションとの関連性が不明ではあった。

防災センターを訪問した。スリランカの人々が常に災害を意識していることを知った。

< NYSCでの活動 >

私たちの文化を発表する機会があったが、改善点はあると思う。ステージに立てたPYは少数で、他のPYは見ているだけだったので。

NYSCでの活動は良質で楽しかった。スリランカの文化と生活について理解を深め、体験できたので、本当に良かった。

< ホームビジット >

ホームビジットはすばらしかった。生活を知るうつつけの体験だった。スリランカに家族ができたのが嬉しい。

ホームビジットは最高の思い出になった。ホストファミリーはとても親切で親しみやすく、温かくもてなしていただいた。スリランカの習慣と文化を知ることが

できたのは、良い経験となった。別れ際にホストファミリーも私も涙を流した。私たちは家族になった。ホームビジットはすばらしかった。世界は一つだと感じた。国や海に境界線があるのは地図上の話だ。彼らは英語が話せなかつたが、私たちと精いっぱいコミュニケーションを取ろうとしていた。たくさんの言葉と彼らの日常について学んだ。

ホームビジットが最高だった。スリランカの生活様式と仏教のお参りの方法について学んだ。刺激的で楽しい活動に満ちていた。

私たちが水道水を飲んだり、カットフルーツや揚げ物を食べたりできないことをホストファミリーに伝えてほしかった。せっかく勧めていただいたのをお断りするのは一苦労だった。だがスリランカの国と人々、宗教、文化についていろいろと学べた。

受入家族を始め、多くの地元の人々と話す機会があったのが良かった。彼らの心温まるホスピタリティを大いに感じた。

< SWYAAスリランカ及びex-PYについて >

滞在中、スリランカPYとex-PYが私たちのために熱心に取り組んでくれたことにも感謝している。

ボランティアと一日中話をして、とても仲良くなつた。この美しい国で私たちが受けた全ての支援に対し、感謝しきれない。是非また戻ってきたい。Ex-PYも親切だった。スリランカ滞在中、私たちをしっかりサポートしてくれた。

< 改善すべき点 >

ホームビジットでは訪問先の家族が英語を話せなかつたので、様々な話をしたり、思うように情報交換したりできなかつた。

ホームビジットでは気まずい場面があった。私はカトリック教徒で、他の宗教の聖人に祈ることができないのに、きちんと判断するための十分な情報がもらえず、仏教の儀式に参加するはめになつた。

スリランカでは、常にできるかぎりのことを私にしてくれようとしている感じた。だが、行き過ぎのことも。何をお返しすればいいのか戸惑う場面もあった。

スリランカでの滞在時間が足りなかつた。時間が限られており、自国を紹介する絶好の機会を逃した。

リラックスする時間もたっぷりあればもっと良かった。特に体調が悪い時のバス移動は良くない。あの時、私は胃の調子が悪く、仲間にも体調が悪い者が何人かいた。